



通信

電話048-480-4150

2018年4月30日発行

2018年4月8日

訪問介護事業所 ケアサポートえん



お花見

—初めてお花見に参加して—

今年の桜は、いつもの年より少し早目に咲いてしまいました。榮緑道を歩いている時は少し肌寒い感じがしましたが、新緑が溢れてとてもすがすがしい気分になりました。えんの庭で朝服れたばかりの竹の子が、お弁当に入っていて、とても柔らかくおいしくいただきました。三味線の演奏で、参加者のみなさんと歌を唄ったり、とても楽しい1日を過ごすことができました。来年も参加したいと思います。

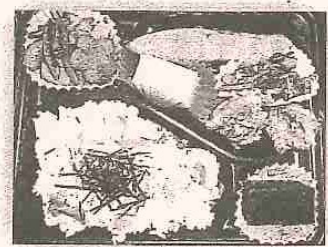
(ケアサポートえん/手塚美津代)



グループホームえん
林スタッフによる三味線演奏



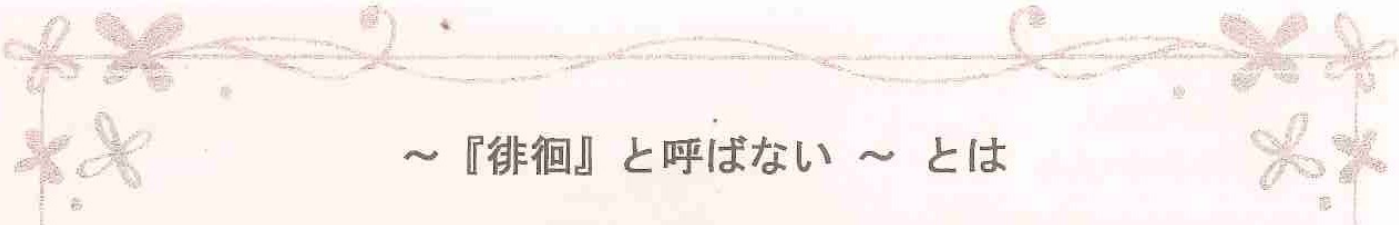
楽しくお手伝いが
できて良かった。
(ボランティア/青木)



今年は桜が早く散り、葉桜だったので、五目寿しに桜でんぶをのせ、春らしくピンク色に。おかずは鮭の塩焼き、卵焼き、から揚げにしました。

(えんの食卓)

参加人数：利用者 31人・スタッフ&ボランティア 41人・スタッフの子供 5人
皆さんの協力のお陰で無事終わることが出来ました。感謝！感謝！（ケアサポートえん/野口）



～『徘徊』と呼ばない～ とは

今年の春はビックリするほど早くやってきました。おかげでケアサポートえん恒例のお花見は「葉見」になりましたが、えん庭先のタケノコも4月早々から出たので、花見弁当に少しだけ入れられました。

さて、3月25日付けの朝日新聞朝刊一面トップ記事は『徘徊と呼ばないで』でした。小見出しには「私は散歩という目的があって出かけた。道が分からず怖かったが、家に帰らなければと意識していた」とあり、『徘徊』と言う言葉の意味＝目的もなく、うろうろと歩き回ること（大辞林）とは違うというのです。

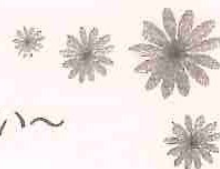
『痴呆・呆け老人』が『認知症』に変わったのは2004年。『痴』も『呆』も愚か、バカという意味です。介護保険が始まって、利用者一人ひとりと契約を交わすようになりました。「痴呆対応型」サービスを二つ持っていて、その文字が書かれた書面を本人に示すのは胸が痛みました。当事者はどんな気持ちだったのでしょうか。どうすればよかったのか、今も正解がみつかりません。「『徘徊』を言い換えよう」という提案も、当事者の気持ちを慮ってのことですから、一歩前進と言えるでしょう。

暮らしネット・えんも記録などでは「ひとり外出」などとしてきました。なぜ出かけたか、目的は何だったのか、ケアする側に配慮できることはなかったか、検証なしに「徘徊＝困った行動」として片付けてしまわない、ケアする側が思考停止にならないようにするためです。

認知症の人が『徘徊』する原因は20ほどあるといいます。これまで病気の進行やそのときの状況により、さまざまな理由で「ひとりでお出かけ」されるのを見てきました。今は亡きAさんは「赤紙が来たから、兵隊に行かなければならない」と突然出かけました。招集礼状が届いたら何が何でも行かなければならない。その先は戦場。モヤモヤと不安が募ったとき、かつて最も近い感情に襲われたのが「兵隊に行く」ときだったのでしょう。女性は、夕方になると「子どものご飯を作らなければならいから、帰ります」と出て行きます。また、前頭側頭型認知症の場合、ひたすら歩きまわる行動を繰り返す時期があります。

市民向けの講座などでは「ひとりでお出かけ」なんていうのは分かりにくいので、「いわゆる『徘徊』」と括弧つきの表現をしています。このころみも「呆けた人はいいわね、何もわからないのだから」といった無理解をなくすための一歩にすぎません。単に『徘徊』という言葉がなくせばよいというものではないのです。

代表理事 小島美里



今年度4月の介護保険制度改正の中で、私たちケアマネの一番の関心事は「生活援助をおおむね月30回を超えるプランの場合は自治体に届け出て、「地域ケア会議」(*1)で検証し、助言を受ける」という運営規定の見直しであろう。

介護保険がスタートして18年。これまでケアマネは利用者・家族の思いを受け止め、様々な角度から検討してケアプランを提案。話し合いながら本人・家族が選択・決定することを支援してきた。独居、夫婦2人暮らし、特に認知症の方は食事や身の回りの世話等ヘルパーの支援が命綱であり、当然1日複数回の支援が必要となる。ヘルパーによる生活援助で何とか日常生活を維持している高齢者は少なくない。

2月13日の国会集会『ケアプランは誰のもの』(*2)で、厚労省の担当者は「ケアプラン修正の強制でも行政処分でもない。サービス給付の制限をするのではなく、自立支援、重度化防止、地域資源の有効活用という観点から必要に応じて助言をすることが目的」と話した。が、第三者による検証を受けること自体が、ケアマネ、利用者を全く信頼せず、ケアマネの専門性を否定するもので、正直「もう、やっつけられない！」という気分である。地域ケア会議の専門職が助言すると言うが、ケアマネは「プランのチェックを受ける」ととらえざるを得ない状況となり、自己規制をすることにつながるだろう。以前、国から生活援助の抑制策が出された時も、自治体側の過剰な反応に、ケアマネは自己規制していった。うがって見れば、国はそれを狙っているのでは？と思ってしまう。

そんな鬱々とした気分の時に、3月13日に三原岳氏(*3)の講演(*4)を聞く機会があり、その中で、介護保険創設時を振り返り、「介護保険の原則として『自己選択、自己決定』があり、そのことで『尊厳』が保たれるのだ」と話された。

時代も制度も変化し続ける中、ケアマネもその中で働かざるを得ない現実があるが、ケアマネ事業所として、ケアマネ個人として、利用者の立場に立ち続けることはできるのではないかと気づかされた。こんな時代だからこそ、介護保険の原則に立ち戻り、利用者の側に立って発言する者が必要なのだ。専門職の誇りを持って、忖度することなく、自己規制をすることなく、利用者の生活を守るべく主張しようと思う。

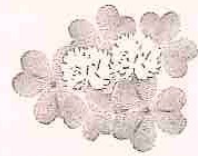
(ケアプランえん／加藤真弓)

(*1) 個別ケースの支援内容の検討から地域課題を抽出し、地域の人々や専門職の声を活かして社会基盤の整備を行い、地域の実態に合わせた地域包括ケアシステムを創るための一つの手段で、他職種^{（*）}の専門職（薬剤師、栄養士、理学療法士等）による検討会議

(*2) 市民福祉情報オフィス・ハスカップ主催 (*3) ニッセイ基礎研究所 准主任研究員

(*4) 新座ケアマネジャーネットワーク主催『「自立」支援の裏側を読み解く～制度改正に向けた論点と課題～』

ボランティアミーティングの報告



今から約 8 年前、えんに始めて見学に来たとき、一步入った時から何とも言えない空気に包まれました。それは一言で「温かい」と言うのとも違う、奥行きのある空気感でした。それから数ヶ月後に、私はえんの職員として働き始め、その空気を作っている大きな要因の一つがボランティアさんの存在であるとわかりました。

えんのボランティアは、人数はもちろんですが、その活動内容や、そしてお人柄まで実に豊かです。そして入職間もない私が驚いたのはその立ち位置でした。他の施設でのボランティアといえば、レクの時間の先生だけだったり、あくまでも職員の補助として洗濯たたみやお掃除のお手伝いというのが殆どではないでしょうか。しかし、えんのボランティアは職員と同じ場所に立ち、異なる視点から利用者さんと職員を見てくれています。その存在は、えんの中で、すっと立って見えました。それから日々を重ねてきましたが、ボランティアの方々にはいつも新鮮な感動と気づきをいただいています。

毎年恒例の「ボランティアミーティング」が昨年度も 2017 年 1 月 27 日に行なわれました。えんの前身「コスモスの家」の頃からの方から「昨日がデビューでした」という方まで 13 名のご参加をいただきました。

「レクに参加している全ての方と等しくコミュニケーションを取りたいが難しい」とおっしゃる方には小島代表から「同じ時間空間を共有することが大切」との言葉。みなさん大きく頷いておられた。「利用者さんの個人的な背景がわからないからこそその繋がりが良い」「あえて自分からは関わらない。一緒に調理をしていると色々話してくれて、職員への不満も聞いたり」「畑の作業で近所の犬の散歩の方とお馴染みになり柿を貰った」「職員さん、この頃疲れてない？」などの声のほか、「グループホームの入居者さんが食べこぼしで汚れた服のままレクに参加するのはどうなのか」と襟を正される指摘も頂きました。

最後に「他の施設での話だが、利用者さんに“私達はありがとうを言うのはもう飽きた、私達をあなた方の生きがいの道具にしないで”と言われたことがある。えんでは“ありがとう”を越えたところで繋がってほしい」とのKさんの発言が、えんのボランティアの姿勢を象徴しているように感じられました。

ボランティアのみなさま、いつもありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いいいたします。

(グループホームえん／井上暁子)

まどかコンサート

♪ 「パラグアイ民族楽器アルパ」 ♪

4月15日(日)運良く雨も上がり、11回目を迎えるまどかコンサートにたくさんの皆様
が参加してくださいました。一皆様からいただいた感想の一部をご紹介しますー



聴いて下さっている皆さんの笑顔から楽しんで下さっていることが伝わ
てきて、私たちも楽しんで演奏することができました。遠い国の音楽の世界
を近くに感じていただけたなら嬉しいです。ありがとうございました。

(ポコ・ア・ポコ 一同)

思いがけず楽しいひとときをありがとうございました。アルパは琴の音によく似ていて親
しみが持てました。～略～ 私は好きになり
“アルパ”を覚えました。今後もこのようなミニ
コンサートをひらいてください。(近隣の方)

友達もさそってくればよかつ
たと思いました。知っている歌
ばかりだったので親近感が持
ててよかったです。(近隣の方)



息子がこういうの好きなんだよ。後ろ
で聴いているだろ？(まどか利用者)

ビルマの竖琴を思い出したよ。水島上等
兵がビルマの僧侶の姿で竖琴を弾いた映
画を見に行ったことがあるんだ…。

(まどか利用者)

ポコ・ア・ポコの皆様始め、ボランティアさん、近隣の方々のご協力のおかげで、
無事に開催できました。多くの皆様の笑顔を拝見し、大変うれしく思いました。

(まどかスタッフ)



世界一周航海記 2

グループリビングえんの森 安岡芙美子

最北の国アイスランドは自然エネルギーの国でもありました。火山国なので地熱発電が盛んなのです。日本も同じ火山国なので地熱発電を行えば原子力に頼らなくても必要な電力は賄えるはずとの話も聞きました。また地球を形作るプレートのなかの2つが毎年何センチか互いに離れて行っている断層を見ることができ地球の壮大な動きを感じることができました。

さて北極圏に近い海はすばらしく荒れていました。物につかまっていなければ歩くのもままならないほどで、ベッドや階段から落ちて何人かが骨折したほどでした。これが10日ほど続いたのでしょうか。みんな良く頑張りました。いい思い出です。

アメリカのニューヨークをへてカリブ海に入ると暖かく、おだやかな旅となりました。

中米で特筆すべきはキューバで、老人福祉施設を訪問しお年寄りと交流しました。100人ぐらいいたでしょうか。日本でいえば老人福祉センターかデイサービスという感じの通所型の施設で、お年寄りはとても元気でサンバを踊って歓迎してくれました。私たちも急きょお返しに炭坑節を踊ったのですが、お年寄りといえどもリズム感のいいキューバ人はすぐにサンバなまりの炭坑節で合流し大いに盛り上がりました。キューバはアメリカの経済封鎖が続き、とても貧しいのですが医療、教育は無料で、おそらく生活の最低限は保障されているのでしょう。とにかく高齢になるまで生きられることに感激しましたし、物乞いする子供もいなくて、みんなきちんと靴をはいて広場でサッカーなどで遊んでいたことにも感激しました。

またあまり知られていない国ですがニクアラガもコントラとサンディニスタ戦線の内戦を終え今は平和を保っています。この国も医療、教育は無料で頑張っているようでした。かつてアメリカの植民地同然だった中米も変わってきているようです。

そしてハワイをへて横浜に帰ってきたのですが、多くの国々を回って感じたのは平和の大切さです。人が人間らしく生きられる、高齢者が高齢者として尊ばれる、子どもが子どもらしく遊んだり勉強できるのも平和あつてのことです。日本ももっと実質的な貢献をしなければと感じました。

～「どうすれば認知症の人への虐待を止められるか」に参加して～



3月18日(日)、「虐待」研修に参加した。講師の林田俊弘氏は、ご自身の施設で実際に虐待を体験され《鼻めがねという暴力～どうすれば認知症の人への虐待を止められるか～》という本を出された。自分の施設で起こったことが世の中で繰り返されてはダメだ、という強い信念から、赤裸々に語ってくださった。

講義を聞くまで「自分は虐待なんかやらないよ」と思っていたが、講義冒頭『虐待は、自分には関係ないと思った瞬間から巻き込まれる可能性がある』と言われ、「あらら」と少し動揺してしまった。

自分が虐待しようと思ってするのではなく、知らず知らずの間にやっつけていることがあるということ、殴る蹴るだけが虐待ではなく、利用者さんが望んでないことをやらせてしまっていることも含まれる。パーティーグッズの鼻めがねや三角帽子、利用者さんが進んでつける、あるいは楽しんでいる、喜んでいる場合は何の問題もない。しかし「ワーかわいい」と職員たちだけが喜んでいる場面や、ウケを狙う、ノリで行う…。恥ずかしい話、自分にも思い当たるところがある。

講義の中で、虐待が起きる原因は「相談できない職場環境にある」と話されていたが、これが一番大きく心に残った。相談できない弱い立場だった場合を想像すると、ストレスの解消を弱者(利用者)に向けてしまう恐れは大いにあり得ると思う。

自分は40代後半でこの業界にデビューしたが、やること全てがうまく行かないことばかり、時間内に仕事が終わらないのは自分の経験の無さ、技量の無さだと思い、人に相談することを迷った時期もあった。多くの方は「そんなこともできないのか」と思われたくないの言葉にできないそうだが、自分は歳をとっていたので、ずうずうしく質問・相談できたし、一緒に働く人たちが助けてくれた。

職場環境が雑然としていることも虐待が起こり得る要因のひとつであるという。掃除が行き届いていない、消耗品を切らしたまま。入浴介助中に石鹸やシャンプーが切れていると、「あ一時間が足りなくなるう」とイラッとする。以前勤めていた会社で、当時の上司が「『次工程はお客様』だと思って仕事をしろ」と叱られたことを思い出す。当時は「ハア？」と思っていたが、今この仕事をしてようやくその意味がわかった気がする。「お客様だけじゃなく、社内の人にも同じように丁寧に仕事をしなさい。次の人が気持ちよく仕事ができるように気配りをしなさい」という意味なのだ。次のスタッフがスムーズに入浴介助ができるようにシャンプーが残り少なければ補充しておくなど、細かいことを積み重ねて行く、小さなことでも質問・相談できる環境であることが虐待の芽を摘むのではないだろうか、と感じた。

(ケアサポートえん・まどかスタッフ/佐藤豊)

～第16回定例総会のお知らせ～

日時 6月17日(日) 中央公民館

総会 13:30～定例総会

記念講演 15:30～『障害者権利条約を学ぼう(仮)』

講師 斎藤なを子さん(社会福祉法人鴻沼会常務理事)

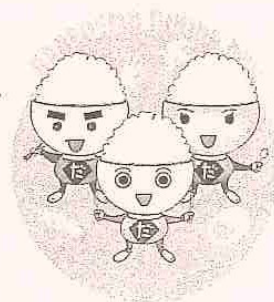
講師は、戦後70年のドイツを訪問、ナチス政権によって障がい者が生きる価値のない存在と20万人が虐殺された事実を伝えられました。『障害者権利条約』はそのような歴史への反省から生まれたものです。障がいの有無にかかわらずすべての人が平等に暮らせる社会を目指すこの条約について共に学びましょう。

だれでも食堂しょくどう ～月いちど、日曜日のおひるごはんを みんなで作って、みんなで食べよう～

毎月最終日曜日 11:00～15:00(食事は12:00から)

グループリビングえんの森にて行います。

材料費:こども無料・おとな300円



～職員大募集!!～

暮らしネット・えんで一緒に働いてみませんか?

ケアマネジャー・ヘルパー(訪問介護職員)・介護職員募集しています。

資格がない方も資格取得のお手伝いをいたしますので、ご相談ください。

地域で暮らし続けていくために 2017年度新規・継続会員募集中!

正会員:1000円 賛助会員:3000円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話:048-480-4150 FAX:048-201-1311

Eメール:npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ:<http://npoenn.com/>